

キース・ヘリング展 アートをストリートへ

森アートセンターギャラリー（六本木ヒルズ） 23. 12. 09～24. 02. 25



「キース・ヘリング」(1958～1990)は、アメリカ合衆国生まれのストリートアートの先駆者とも呼べる画家で、1980年にニューヨークの地下鉄構内で使用されていない広告掲示板に黒い紙を張り、その上にチョークで絵を描くという「サブウェイ・ドローイング」と呼ばれる活動を始めた。

そのシンプルな線と色で構成された作品は、ニューヨークの通勤客の間で評判となり、名前が知られるようになり数回の個展を開催して地名度を上げた。

<展示内容>

1. 6メートルの大型作品など「150点」が勢ぞろい。
活動初期の「サブウェイ・ドローイング」に、トレードマークとなったモチーフによる作品《アイコンズ》(下部右上)や彫刻、ポスター、晩年の大型作品まで、画伯のアートを一堂に体験できる貴重な機会である。
2. 発光する作品、闇に浮かび上がる展示、80年代NYさながらの喧騒・・・
画伯が駆け抜けた10年のストーリーとともに、展示空間は劇的に展開。
3. 現代へのメッセージ。 略
4. スペシャル・トピック。 略

